

## 筋肉のつっぱり(痙縮)の 治療について

脳神経外科 竹田 信彦

こころに残る言葉



vol.69  
2018.10

JCHOだより  
うえーぶ  
Wave



独立行政法人 地域医療機能推進機構

東京高輪病院

医療連携・患者支援センター

〒108-8606 東京都港区高輪3丁目10番11号  
TEL: 03-3443-9576 FAX: 03-3443-9570  
<http://takanawa.jcho.go.jp/>

### 病院理念

心のこもった医療を安全に提供します。

## 筋肉のつっぱり(痙縮)の 治療について

たけだ のぶひこ  
東京高輪病院 脳神経外科 竹田 信彦



当院脳神経外科で2015年より赴任しております竹田信彦と申します。脳神経外科の中でも痙縮、難治性疼痛、不随意運動などに対する機能的脳神経外科という専門分野を当院のような一般病院でも広めたいと考えており、今まで少しずつですが可能な範囲の治療を行って参りました。地域連携の会などでも、お話をさせて頂く機会を頂き、今までも地域の先生方に貴重な患者さまを多数ご紹介頂き、感謝申し上げます。

さてこの6月より当院で訪問看護ステーションが発足しました。訪問診療の現場では痙縮という筋肉のつっぱりによりADLが低下している患者さまが潜在的に多数存在すると考えており、当院の訪問看護師とも連携をとってそのような患者さまへの治療導入を試みておりますが現状ではまだお役に立てる患者さまは少ないようです。今後、当院の訪問看護ステーションと先生方が連携を取らせて頂くなかで、当科で治療可能な痙縮患者さまがおられましたらご紹介頂けたらと思います、改めて痙縮治療をご紹介させて頂きます。

痙縮とは脳や脊髄などの中枢神経が障害された後に出現する筋肉の突っ張りのことです。典型的には脳卒中後片麻痺に見られる上肢屈曲、下肢尖

足内反や脊髄損傷や脳性麻痺にみられるはさみ足などの異常肢位(図1)がみられます。直接、生命に影響を与える病態ではないので治療介入せず経過をみる場合もあるかと思いますが、社会生活をされている方なら歩行障害や食事、更衣時の支障、重介助の方の場合も介護の支障になっている場合がみられます。足の突っ張りを支えにして歩行されている方もおられ、すべての痙縮が悪いわけではありませんが、痙縮の治療をすることでご本人や家族の満足度が上がる例がまだまだあると考えています。

当科で可能な治療法としてはボツリヌス毒素注射、バクロフェン髄注療法が代表的なものです。ボツリヌス毒素注射は神経毒として知られるボツリヌス毒素を無毒化したもので筋肉注射をすることで神経筋接合部に作用し筋緊張を緩和します。さまざまな疾患に適応があり、眼瞼痙攣や顔面痙攣、斜頸に対しても当科で治療可能ですが、痙縮に対しても非常に有効な治療法です。一回の注射で3か月程度効果が持続し、繰り返さなければならぬという面もありますが、よく言えば可逆性があり効果を見て次回の量を調節できることが患者様にとって安心して受けて頂けると思います。

裏面へ続く

ボツリヌス注射は注射した筋肉のみに作用しますので局所の治療ですが、広範囲に痙縮をみとめる場合は局所注射では対応困難になります。重介助の方が多いですがその場合はバクロフェン髄注療法を検討します。これは脊髄に作用する筋弛緩剤であるバクロフェンを脊髄硬膜内に直接持続注入する方法です。この場合もまず腰椎穿刺で一回薬剤を注射し、まず効果があるかを判定することができます。効果が見込めそうであれば、その効果を持続させるために持続注入用のポンプ（図2）とカテーテルを手術で植え込みます。全身麻酔が必要であることと、その後薬液の補充を数か月に一回外来で施行必要であることが欠点で、手術によるメリットと比較して本人、ご家族と治療を行うか相談が必要と考えております。薬液注入の手技は外科医でなくても可能ですので、今後、地域の先生方が薬液補充を施行していただくことで、この治療を受けられる患者様が増えていけばと考えております。

その他、四肢の痛みを伴った患者さまには脊髄刺激療法も可能ですし、新規の治療も導入を検討

しています。また、痙縮の治療にはリハビリが不可欠です。専門的なリハビリでなくても自己訓練でもよいですが、一日少しの可動域訓練で効果が増強したり持続期間が伸びたりします。訪問看護で指導も可能ですし、意欲のある方には当院地域包括ケア病棟を利用したりリハビリ入院も検討します。お問い合わせください。

以上、治療が適応があるかわからない場合も多いかと思いますが、当院訪問看護ステーションまたは当科外来にお気軽にご相談ください。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



(図1) 典型的な痙縮の肢位



(図2) バクロフェン髄注用ポンプ

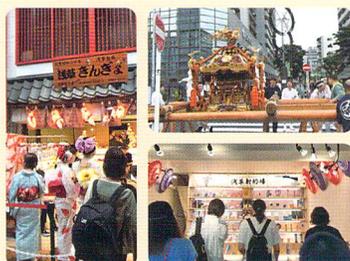
### こころに残る言葉

万策尽きたと思うな。  
自ら断崖絶壁の淵にたて。  
その時はじめて新たなる風は必ず吹く。

松下 幸之助



### 編集 後記



今年も猛暑の夏を過ぎ、一雨ごとに過ごしやすい時期になってきた。地元街中やふらっと浅草をぶらぶら散歩していても、季節の移り変わりを感じる場面に遭遇することも。先日鮮やかな神輿に威勢の良い担ぎ手が練り歩く姿、浴衣姿の観光客が射的や金魚すくいに夢中になる笑い声の場面に遭遇。また空には秋の気配を感じるトンボの姿も。これも日本の良さですね。皆さんはどんな場面に遭遇しましたか？

(医療連携・患者支援センター 飯田一郎)